

介護福祉士養成課程における衣生活技術の教育方法について

—— ロールティッシュカバーの製作 ——

内田幸子・薩本弥生・雨宮邦子・斉藤秀子

A study on the Educational Method Used
to Train Care Workers in Sewing

—— Fabrication of the Roll Tissue Cover ——

Yukiko UCHIDA • Yayoi SATSUMOTO • Kuniko AMEMIYA • Hideko SAITO

高崎健康福祉大学紀要 第16号 別刷

2017年3月

介護福祉士養成課程における衣生活技術の教育方法について

—— ロールティッシュカバーの製作 ——

内田幸子・薩本弥生¹⁾・雨宮邦子²⁾・斉藤秀子³⁾

(受理日 2016年9月30日, 受稿日 2016年12月22日)

A study on the Educational Method Used to Train Care Workers in Sewing

—— Fabrication of the Roll Tissue Cover ——

Yukiko UCHIDA・Yayoi SATSUMOTO¹⁾・Kuniko AMEMIYA²⁾・Hideko SAITO³⁾

(Received Sept. 30, 2016, Accepted Dec. 22, 2016)

Abstract

In this study, we practiced a class about the sewing skill as a subject by the production of the roll tissue cover for students registered at a care worker training course. We investigated questionnaires and examined the contents.

We divided four hours in training in the care worker training course and could teach the fabrication of the roll tissue cover, and it was got the sewing skill that student should have learned. Therefore, we think it to be proper as a subject of the clothing training in the care worker training course. As a result of having carried out questionnaires to the students who took lectures, the satisfaction of the class was high. Furthermore, we developed an inclination to want to make use of skill of the sewing that students learned in the worksite for providing nursing care. We extracted five factors as a result that we took a factor analysis about interest degree for the sewing.

On the basis of the result of this study, we want to examine the contents of this subject, a method in future.

I はじめに

平成28年版高齢社会白書¹⁾によれば、我が国

の高齢化率は26.7%で、総人口が減少するなかで、高齢化率はさらに上昇すると予想されている。厚生労働省は認知症高齢者や医療ニーズの

1) 横浜国立大学 2) 長野県立福祉大学校(非) 3) 山梨県立大学

高い重度の高齢者に的確に対応できる質の高い人材を安定的に確保していくことが喫緊の課題としている²⁾。このような背景のもと、より一層質の高い介護福祉士の養成を目指し、介護福祉士養成課程における教育カリキュラム等が見直され、平成21年度の入学生から新カリキュラムに則り、教育が進められている³⁾。更にこのカリキュラム改正では、在宅介護推進の流れを受け、訪問介護の技術を介護実習等で強化することがうたわれ、利用者の生活を総合的に支援していくために必要となる家政系科目の内容を強化する方向が明示されている³⁾。日常生活を円滑に営むことが困難な人に対して生活支援をすることを専門とする介護福祉士には、家事行為に関する適切な知識と技術が求められる。衣生活に関わる知識・技術の教育内容は、利用者の衣生活を支援する視点から、実生活で活かされる知識と技術の習得が重要となる。

大学における介護福祉士養成課程における衣生活に関わる教育内容⁴⁻¹⁰⁾は「介護の基本」、「生活支援技術」等の授業時間内で行われ、カリキュラムに準拠した内容としている。具体的な教育内容は各養成校の科目担当者の判断に委ねられており、工夫が求められている。特に実習に配分できる時間数は教育施設によって異なるため、学生の既習状況にも差が生じており、養成講座の衣生活分野も内容や方法に課題が多い現状にある。更に、これまで介護福祉士養成教育における家政関連科目全般についての研究¹¹⁻¹³⁾はあるが、衣生活の技術に関わる教育実践について検討した事例はみられない。

筆者ら¹⁴⁾は介護福祉士養成教育のための衣生活に関わる教育内容を介護現場の要望に対応させる目的で、介護就業者を対象に、どのような教育内容が必要かを調査し報告した。その結

果、介護現場で求められる衣生活に関わる技術は、「介護に必要な服の実際と更衣介護の体験」、「介護に必要な服の種類」等に次いで、「四つ穴ボタンをつける」、「ズボンの裾をまつりつける方法」、「スナップをつける」等が挙げられていた。養成課程の衣生活技術習得のための実習では、縫製の基礎的技術と衣服修繕のための技術の習得が求められる。

本稿では介護福祉士養成課程に在籍する学生を対象にロールティッシュカバーを題材とした授業を実践し、授業前後に実施したアンケート調査を分析し、授業の題材としての妥当性、製作により縫製の基礎的技術・衣服の修繕技術に対する意識を向上させることができるか、実習を通じて将来の介護福祉現場での活用意欲の向上に繋げていくことができるかについて検討した。

II 方法

1. 授業実践内容

Y大学およびT大学の介護福祉士コースの「生活支援技術III」において、担当教員による授業を実践した(表1)。

表1 授業実践の概要

場 所	T大学	Y大学
時 期	2013年7月2日・9日	2014年12月3日・10日
対 象	介護福祉士コース学生25名	介護福祉士コース学生19名
授業科目	生活支援技術III	生活支援技術III(家事)
授業回数	4コマ	4コマ
教 室	家政実習室	被服科学実験室

縫製の基礎的技術および衣服の修繕のための技術を習得させるために、ロールティッシュカバーの製作に際し、製作方法のプリント(まつり縫い、スナップつけ、ボタンつけの方法を含む)、段階標本を準備した。ロールティッシュカバーの製作手順を図1に示す。

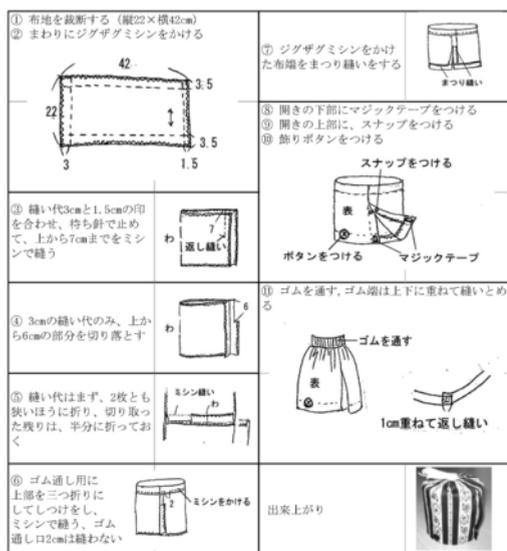


図1 ロールティッシュカバーの製作手順

2. 授業目標

本実践では、1コマ(90分)2コマ続きで2週にわたる4コマの授業を編成した。授業目標は「縫製の基礎的技術、および衣服の修繕のための技術を理解、習得すること、また、その技術をどのように使うかについて学び、介護の現場で生かしていく意欲をはぐくむこと」と設定した。学習指導案(抜粋)を表2に示す。

表2 学習指導案(抜粋)

コマ	学習内容	教材
1コマ	アンケート調査の記入をする、裁縫用具を確認する、縫製の基礎的技術について知り、製作する(布地の裁断、印つけ、ジグザグミシンかけ)	プリント教材、段階標本、裁縫用具見本裁縫用具(チャコペン、ものさし、待ち針、ミシン、ミシン針、ミシン糸、ボビン)、アンケート用紙
2コマ	衣服の修繕のための技術についてプリント教材と標本により知り、製作する(ミシン縫い、縫い代の始末、三つ折りとしつけ、まつり縫い)	プリント教材、段階標本、裁縫用具(待ち針、縫い針、ミシン、ミシン糸、ボビン、ミシン針、まつり用の縫い糸、糸切はさみ)
3コマ	衣服の修繕のための技術についてプリント教材と段階標本で知り、製作する(マジックテープつけ、スナップつけ、ボタンつけ)	プリント教材、段階標本、裁縫用具(マジックテープ、ミシン、ミシン針、ミシン糸、ボビン、スナップ、ボタン、縫い針、スナップ・ボタン付け用糸、糸切はさみ)
4コマ	衣服の修繕のための技術についてプリント教材と段階標本で知り、製作する(ゴム入れ、アイロン仕上げ)、作品の提出、ワークシートの記入	プリント教材、段階標本、裁縫用具(縫い糸、縫い針、ゴム通し、ゴム、アイロン、アイロン台、はさみ、糸切はさみ)、ワークシート用紙

3. アンケート調査

(1) アンケート調査内容

アンケートの質問内容は次のようである。学生の裁縫技術への興味関心、理解、習得度、介護福祉現場で活用する意欲等が被服実習前後でどのように変化するか、また、それらの因果関係を明らかにするために、裁縫技術に対する理解・関心度等の項目を事前に6項目、事後に10項目のアンケート調査(巻末資料)を行った。アンケートの回答は7件法(1:全くそう思う、2:そう思わない、3:あまりそう思わない、4:どちらでもない、5:ややそう思う、6:そう思う、7:非常にそう思う)とした。

(2) アンケートの分析方法

データの分析には統計処理ソフト SPSS Ver. 20を用いて、分散分析、平均値の差の検定(*t*検定)を行い、Amos 20を用いて共分散構造分析を行った。有意水準は、*: $p < .05$ 、**: $p < .01$ 、***: $p < .001$ とした。

III 結果および考察

1. 調査結果

分析にあたり、開催校による差があるかないか、平均値の差の検討を行ったところ、全項目において有意差は認められなかったため、まとめて解析した。

(1) 裁縫経験に関する回答学生の実態

回答学生44名のうち、男子学生は11名(25.0%)、女子学生は33名(75.0%)で、平均年齢は20.0歳であった。

裁縫経験については、中学で経験ありと答えた学生は37名(84.1%)、高校で経験ありと答えた学生は26名(58.1%)、学外で経験ありと答えた学生は15名(34.1%)であった(図2)。分析

には、表3に示した2群（中高校外で2度以上経験ありと答えた29名を裁縫経験豊富群、中高校外で1度しか経験ない15名を裁縫経験少ない群）に分けて分析した。

現在の大学生は、中学校での製作は選択内容であるため必ず学んでいるとは言えない。また、高校では「家庭基礎」履修の場合、被服の製作は行わないという教育課程で学んでいる集団である。

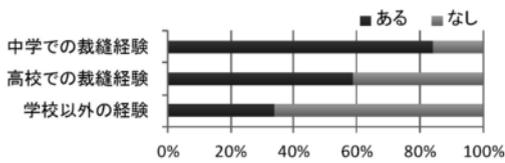


図2 裁縫経験の有無

表3 裁縫経験豊富群と裁縫経験少ない群

中学校	高校	学校以外	人数(名)	
○	○	○	10	裁縫経験豊富群 29
○	○		15	
○		○	4	
○			8	裁縫経験少ない群 15
	○		1	
	○		1	
			5	
延べ37	延べ33	延べ15	44	

(2) 裁縫道具・糸・衣服の留め具の認知度

裁縫道具のチャコペン、ものさし、はさみ、糸きりはさみ、ミシン、ミシン針、ボビン、まち針、縫い針、アイロン、アイロン台は90%以上の学生が、霧吹きは73%の学生が知っていた(図3)。

糸については、ミシン糸は100%の学生が知っていたが、ボタンつけ糸は43%、まつり糸は18%しか認知されていなかった(図4)。

衣服の留め具については、マジックテープ、ボタン、ファスナーは80%以上の学生が知っていたが、スナップは57%、ガキホックは66%とあまり認知されていなかった(図5)。

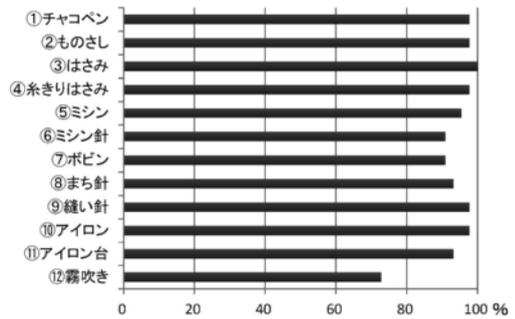


図3 裁縫道具の認知度

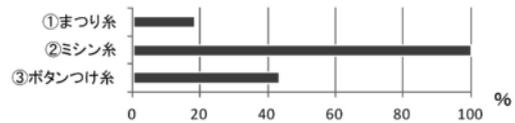


図4 糸の認知度

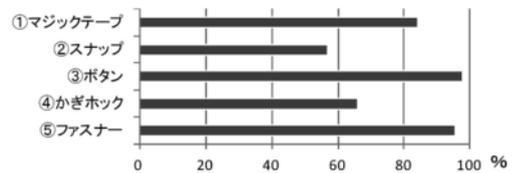


図5 衣服の留め具の認知度

(3) 習得済みの技術

習得済みの技術については、ジグザグ縫い、ミシン直線縫い、しるしつけ、まつり縫いは60%の学生が習得済みであると答えた。しかし、スナップつけ、ゴム始末の仕方は回答学生の20%以下しか習得していなかった(図6)。

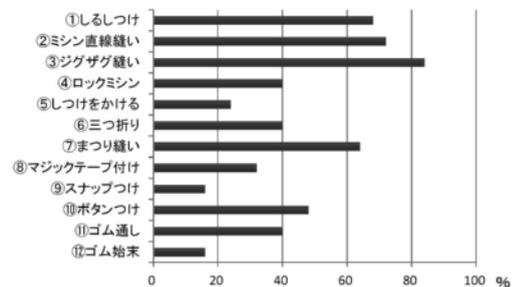


図6 習得済みの技術

2. 授業実践の学習効果

(1) 本題材により習得できた裁縫技術

ロールティッシュカバーの製作において習得が見込まれる技術としては、しるしつけ、ジグザグミシン、ミシン直線縫い、しつけと三つ折りミシン、まつり縫い、マジックテープつけ、スナップつけ、ボタンつけ、ゴム通し、アイロン仕上げである。授業後の技術の習得について、いずれの技術についても約8割以上の学生が肯定的に回答し、技術を習得できたと考える学生が多かった(図7)。

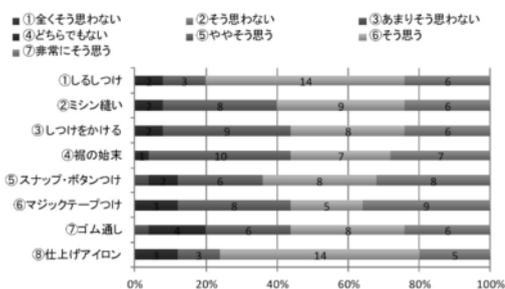


図7 習得できた技術

これらから、介護福祉士が習得しておくべき縫製の基礎的技術と衣服の修繕のための技術を習得する上で本題材は適していると考えられる。

(2) 衣服の修繕と洋服のアイテム

衣服の修繕について、どのような技術が活かせるかを洋服のアイテム別に回答を得た結果、ブラウス・ポロシャツについては「ボタンつけ」が最も多く27名、ジャケット・コートでは同じく「ボタンつけ」が34名、ズボン・スカートについては「裾のまつり縫い」を33名、「ゴム通し」を7名、肌着については「ほつれ直し」の技術が活かせると答えた。習得した衣服の修繕技術は実生活で役立つと認識したことが推察できる。

3. アンケート結果の平均値

授業実践前後に得た16項目の回答について、裁縫経験豊富群と裁縫経験の少ない群との間の平均値および標準偏差とt検定を行った結果を表4に示す。質問項目のうち「[事前]技術を習得したいか」「[事前]裁縫技術は介護現場で役立つか」について裁縫経験少ない群よりも裁縫経験豊富群の方が有意に高い値となった。中学、高校、学外での経験を積み重ねることで、介護現場への活用意識が高まると推察できる。実習をスパイラルに中学、高校、学外で繰り返していくことが重要であると考えられる。家庭科における学習経験の有無と学習要求との間に密接な関係があるという報告¹⁵⁾もあり、それまでの学習内容のいかんによって学習者の意識も変化する可能性を示唆し、学習者の実態に即した教材および指導法が課題となると考えられる。

表4 アンケート結果の平均値と標準偏差及びt検定の結果

	裁縫経験豊富群		裁縫経験少ない群		p値
	平均値	SD	平均値	SD	
[事前]裁縫について難しいと思うか	5.103	1.543	5.600	0.986	0.265
[事前]裁縫道具に興味があるか	3.897	1.047	3.600	0.910	0.358
[事前]糸に興味があるか	3.621	1.015	3.400	0.986	0.494
[事前]留め具に興味があるか	3.655	1.173	3.667	0.816	0.973
[事前]技術を習得したいか	5.483	1.184	4.267	1.100	0.002**
[事前]裁縫技術は介護現場で役立つか	5.621	0.942	4.867	0.640	0.003**
[事後]裁縫道具に関心が持てたか	5.621	0.728	5.600	0.828	0.932
[事後]裁縫道具が理解できたか	5.793	0.978	5.867	0.834	0.805
[事後]名前用途が理解できたか	5.621	1.208	5.667	0.900	0.897
[事後]留め具が理解できたか	5.862	0.789	5.867	0.915	0.986
[事後]裁縫技術に興味関心が持てたか	5.724	0.751	5.867	0.743	0.553
[事後]裁縫技術が理解できたか	5.690	0.604	5.867	0.834	0.424
[事後]介護現場に必要な裁縫技術に関心が深まったか	5.690	0.660	5.400	1.121	0.286
[事後]介護職に就いたら裁縫技術を役立てたいか	5.966	0.778	5.800	0.862	0.523
[事後]裁縫技術をもっと練習したいか	6.069	0.753	5.600	0.737	0.055
[事後]衣服の修繕方法をもっと知りたいか	5.966	0.906	5.800	0.775	0.550

* : p<0.05 ** : p<0.01

また、事後の質問項目については有意な差はみられなかった。大学に入るまでの学生の事前の被服実習の経験度の差によらず、被服実習を終えた後には、「[事後] 介護職に就いたら裁縫技術を役立てたいか」という問いにあるように、裁縫技術を活用する意欲が高まっていることが示され興味深い。

4. 衣生活技術の介護福祉現場での活用意欲に影響を与える要因

学生が裁縫技術を介護福祉現場で活用する意欲に被服実習前後の裁縫技術への興味関心、理解等がおよぼす影響を明らかにするために、授業前後の裁縫技術に対する理解・関心度等のアンケート項目による探索的因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行った。その結果、

固有値 1.0 を基準としたところ、5 因子解が得られた。第 1 因子は「[事後] 裁縫技術習得と介護現場での活用意欲」、第 2 因子は「[事前] 裁縫技術への興味関心」、第 3 因子は「[事後] 裁縫技術の理解」、第 4 因子は「[事後] 裁縫技術の理解および介護現場での活用興味」、第 5 因子は「[事前] 介護現場での裁縫技術有用意識」と命名した（表 5）。

得られた 5 因子を潜在因子、各因子を構成する質問項目を観測変数として因子間の相関係数の大きな因子間にパスが引けると考え、さらに因果関係を考えてパスの方向を決めモデルを作成して共分散構造分析を行った。その際、第 4 因子と第 5 因子は観測変数が各々 2 つしかなく、因子のままでは収束しなかったため、潜在変数を構成する係数が大きい方の観測変数を因子と

表 5 探索的因子分析結果

	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子	第 4 因子	第 5 因子	因子名
[事後]裁縫技術をもっと練習したいか	0.893	-0.021	-0.083	-0.140	0.182	[事後]裁縫技術習得と介護現場での活用意欲
[事後]衣服の修繕方法をもっと知りたいか	0.721	-0.053	-0.006	-0.027	0.058	
[事後]介護職に就いたら裁縫技術を役立てたいか	0.706	0.139	0.076	0.197	-0.125	
[事後]裁縫道具に関心が持てたか	0.483	-0.064	-0.169	0.409	-0.053	
[事前]裁縫道具に興味があるか	-0.017	0.955	-0.140	0.102	0.055	[事前]裁縫技術への興味関心
[事前]糸に興味があるか	0.102	0.844	-0.040	-0.124	-0.056	
[事前]留め具に興味があるか	-0.228	0.770	0.118	0.070	0.060	
[事前]裁縫について難しいと思うか	-0.164	-0.398	-0.045	0.157	0.097	
[事後]名前用途が理解できたか	-0.299	-0.012	0.915	0.024	0.065	[事後]裁縫技術の理解
[事後]裁縫道具が理解できたか	0.020	-0.036	0.648	0.067	0.069	
[事後]留め具が理解できたか	0.229	-0.009	0.620	-0.226	-0.062	
[事後]裁縫技術が理解できたか	0.308	0.015	0.568	0.064	-0.151	
[事後]裁縫技術に興味関心が持てたか	0.014	-0.033	-0.017	0.968	-0.005	[事後]裁縫技術および介護現場活用興味
[事後]介護現場で必要な裁縫技術に関心が深まったか	0.351	0.001	0.253	0.377	0.111	
[事前]裁縫技術は介護現場で役立つか	0.041	-0.113	-0.078	0.051	0.861	[事前]介護現場での裁縫技術有用意識
[事前]技術を習得したいか	0.151	0.151	0.137	-0.080	0.698	
因子寄与率 (%)	26.608	15.707	10.142	6.586	4.737	
累積寄与率 (%)	26.608	42.315	52.457	59.042	63.415	

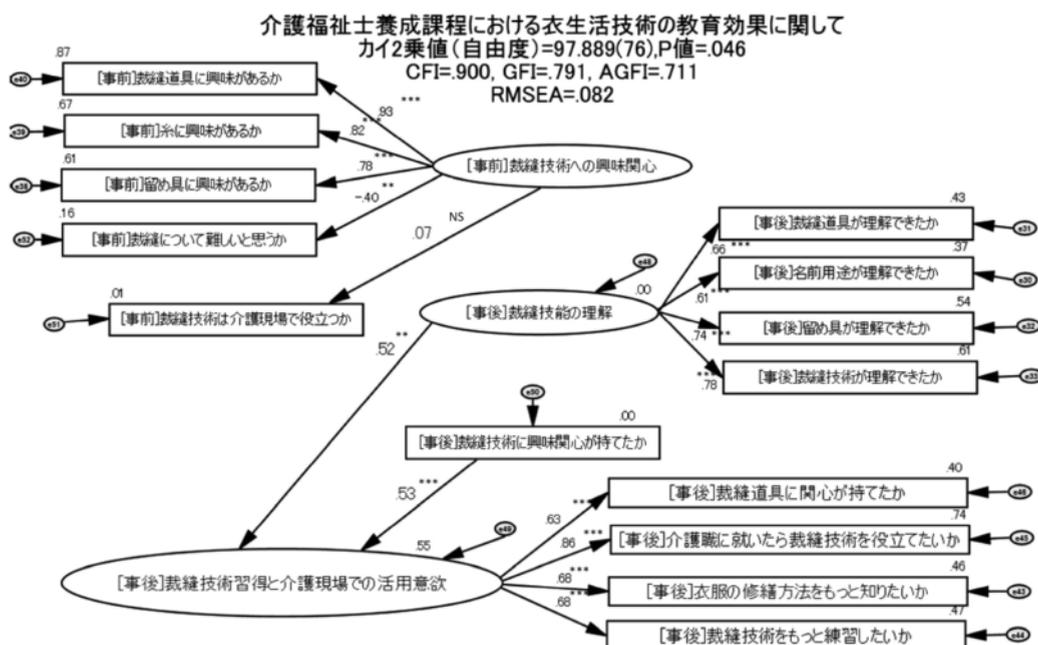


図8 授業前後の質問項目による因子間のパス図

して解析に用い、学生が裁縫技術を介護福祉現場で活用する意欲に被服実習前後の裁縫技術への興味関心、理解等の因子がおよぼす影響を明らかにするパス図を導きだした。その結果、図8のパス図が得られた。適合度指数は CFI=0.900, GFI=0.791, AGFI=0.711, RMSEA=0.082 を示しているため、モデル適合度は妥当であると言える。パス解析の結果、被服実習前の「[事前]裁縫技術への興味関心」から「[事前]裁縫技術の介護現場で役立つか」は有意でなかった。すなわち被服実習前には裁縫技術への興味関心は介護福祉現場で有用であるという意識につながっていないといえる。

また、「[事前]裁縫技術への興味関心」や「[事前]裁縫技術の介護現場で役立つか」から「[事後]裁縫技術の理解」へのパスおよび「[事後]裁縫技術の介護現場での活用意欲」へは有意なパスが引けなかった。よって、実習前の裁縫技

術への興味の程度や裁縫技術を介護現場に役立てることができるという有用意識は実習後の意識には影響がないと考えられる。

一方、実習後には「[事後]裁縫技術の理解」から「[事後]裁縫技術習得と介護現場での活用意欲」(パス係数 0.52, $p < .01$)へのパス、ならびに「[事後]裁縫技術に興味関心が持てたか」から「[事後]裁縫技術習得と介護現場での活用意欲」(パス係数 0.53, $p < .001$)へのパスが有意に直接効果として示された。各潜在因子から観測変数への影響指標は 0.61~0.86 であり、実習後の「[事後]裁縫技術習得と介護現場での活用意欲」の観測変数である「[事後]介護職に就いたら裁縫技術を役立てたいか」の係数が 0.86 で特に高い。今回の被服実習は介護福祉現場に必要な要素技術が含まれており、実習を通じて裁縫技術が将来の介護福祉現場で活用できるという実習の有効性や意義を感じることにつなが

り、裁縫技術を習得し、介護福祉現場での活用意欲を高めていると推察された。

5. 授業後の自由記述

衣服の修繕のための本実習についてどのように考えるかという問いの自由記述には、本実習を終えて、「裁縫技術を習得できた」を24名が挙げ、「修繕の方法が習得できた」を12名が、「介護現場で必要」あるいは「介護現場で役立つ」を10名が挙げている。受講学生はロールティッシュカバーを製作したことによって、裁縫技術および衣服の修繕方法を身につけ、介護現場で必要と考えたのではないかと推察される。この点は、介護福祉士養成課程の学生の声として、将来介護現場で役立てていきたいという意識にも繋がり、本研究の当初の目的である「ロールティッシュカバー製作により縫製の基礎的技術、衣服の修繕のための技術に対する意識の向上」は概ね達成されたと考える。

IV まとめ

介護福祉士養成課程を有する2大学において、衣生活技術を習得する被服実習としてロールティッシュカバーの製作を題材として授業実践を行った。

その結果、介護福祉士養成課程での被服実習におけるロールティッシュカバーの製作は、4コマの時間配分で製作でき、習得すべき技術を得られた。また、被服実習には介護福祉現場で必要な要素技術が含まれており、因子分析、パス解析により、被服実習を通じて裁縫技術が将来の介護福祉現場での活用できるという実習の有効性や意義を感じることに繋がり、裁縫技術を習得し、介護福祉現場での活用意欲を高め

ていることが推察された。

在宅介護推進の流れを受けた平成21年度の介護福祉士養成課程の教育カリキュラム改正では、訪問介護の技術を介護実習等で強化し、利用者の生活を総合的に支援していくために家政系科目の内容を強化する方向が明示されている³⁾。このことから、衣生活に関わる知識・技術の教育内容は、利用者の衣生活を支援する視点から実生活に直結した技術の習得が重要となる。

本題材で進めた裁縫技術を習得することにより、既存の衣服を修繕、あるいはリフォームして利用者が着用しやすくすることもできる。更に、市販されている衣服自助具等を利用者の衣生活支援に役立てることに繋がると思われる。介護現場には、体形の変化によって衣服が合わない利用者、脳血管障害によって片麻痺になった利用者、慢性関節リウマチによって手指の巧緻性が低下した利用者、ストーマを装備している利用者等さまざまな人々がいる。既製品のよりよい商品開発が望まれるところであるが、既製品はすべての人に対応することは困難で、中には不便な衣生活を営んでいる人もいる。傍らで支える介護福祉士ができる範囲でアイデアを提供し、まつり縫いやゴム通し等の確かな裁縫技術を身につけていれば、利用者の衣生活の支援に役立つと考える。利用者の生活を支援する視点から、実生活で活かされる知識と技術を備えた、介護現場で実践力を発揮できる介護福祉士を養成していきたい。

本研究は2013年に開催された日本衣服学会第65回年次大会において一部を発表した。最後に本授業実践に伴うアンケートにご協力いただいた学生の皆さんに謝意を表す。

参考文献

- 1) 内閣府. 平成28年版高齢社会白書. http://www.8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/zenbun/28pdf_index.html
- 2) 厚生労働省 HP. 社会福祉士及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて. http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/shakai-kaigo-yousei/index.html
- 3) 社会福祉士介護福祉士社会福祉主事制度研究会, 改訂版 社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事関係法令通知集, 第一法規, 2009.
- 4) 介護福祉士養成講座編集委員会編. 新・介護福祉士養成講座 6: 生活支援技術 I. 中央法規, 2009, p. 168-186.
- 5) 白井孝子, 柴田範子, 本名 靖, 綿 祐二. 介護福祉士養成テキスト 8: 生活支援技術 I. 建帛社, 2010, p.45-53.
- 6) 久保田トミ子, 柴田範子, 白井孝子, 山崎イチ子. 介護福祉士養成テキスト 8: 生活支援技術III, 建帛社, 2010, p.67-102.
- 7) 川井太加子. 最新介護福祉全書第 5 巻: 生活支援技術 I 基本編. メガカルフレンド社, 2014, p.148-187, p.304-341.
- 8) 中川英子. 介護福祉のための家政学. 建帛社, 2004, p.91-122.
- 9) 中川英子. 介護福祉のための家政学実習. 建帛社, 2005, p.73-116.
- 10) 中川英子. 福祉のための家政学. 建帛社, 2010, p. 125-173.
- 11) 田崎裕美, 鈴木修子. 介護福祉士養成教育における家政学の課題に関する一考察. 介護福祉学. 2002, 9(1), p.82-92.
- 12) 奥田郁子, 石川周子, 熊本裕子ほか. 介護福祉養成における家政系教育. 介護福祉学. 2003, 10(1), p.19-32.
- 13) 神部順子, 奥田郁子, 熊本裕子ほか. 介護福祉養成教育のための「家政学」関連科目のあり方. 日本家政学会誌, 2003, 54(6), p.501-510.
- 14) 内田幸子, 児玉直樹, 雨宮邦子ほか. 介護福祉士養成のための衣生活に関わる教育内容について. 高崎健康福祉大学紀要, 2013, 12 号, p.185-194.
- 15) 堀内かおる, 武井洋子, 田部井恵美子. 被服製作及び手芸の教育的意義: 学習要求からの考察. 東京学芸大学紀要, 第 6 部門, 産業技術・家政, 1988, 40, p. 127-140.

縫製の基礎的技術、衣服の修繕のための技術についてのアンケート調査（授業前）

平成 25 年 7 月, 11 月

高崎健康福祉大学 内田幸子
山梨県立大学 斉藤秀子

介護福祉士養成のためにどのような授業が効果的かについて検討するために、アンケート調査を行うこととなりました。つきましては、授業開始時および授業終了時のアンケートにご協力をお願いします。なお、本調査のデータは本研究のためにのみ利用し、厳重に保管するとともに、研究終了後は廃棄処分とします。

1. あなたについてお聞きします。該当する項目に○, または () 内に記入してください。

- 1) 年齢 () 歳
- 2) 性別 ①男 ②女
- 3) 中学での裁縫の実習経験がありましたか。 ①有 ②無
あった場合の作品名を教えてください。 ()
- 4) 高等学校で裁縫の実習経験がありましたか。 ①有 ②無
あった場合の作品名を教えてください。 ()
- 5) 学校以外で、手縫いまたはミシン縫い等で作品を作ったことがありますか。 ①有 ②無
あった場合、どのようなものを作ったか教えてください。 ()
あった場合、裁縫技術を誰かに教えてもらいましたか。
①自己流で作った ②母親に教えてもらった ③祖母に教えてもらった
④その他 ()
- 6) 作品を作ったときの気持ちはどうでしたか (複数回答可)。
①裁縫の技術を覚えられてよかった。 ②完成した時はとてもうれしかった。
③できた作品を使いたいと思った。 ④きれいにできたと思った。
⑤だれかに見せたいと思った。 ⑥だれかにプレゼントしたいと思った。
⑦その他 ()
- 7) 裁縫について難しいと思いますか

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

- 8) 知っている裁縫道具に○をつけてください (複数回答可)。
①チャコペン ②ものさし ③はさみ ④糸切はさみ ⑤ミシン ⑥ミシン針
⑦ボビン ⑧待ち針 ⑨縫い針 ⑩アイロン ⑪アイロン台 ⑫霧吹き
- 9) 裁縫道具について興味・関心がありますか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

- 10) 知っている裁縫の時に使う糸等に○をつけてください (複数回答可)。
①まつり用糸 ②ミシン糸 ③スナップ・ボタン付け用糸
- 11) このような糸等について興味・関心がありますか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

- 12) 知っている衣服の留め具に○をつけてください。
①マジックテープ ②スナップ ③ボタン ④鍵ホック ⑤ファスナー

13) このような衣服の留め具について興味・関心がありますか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

14) すでに習得できていると思う技術がありましたら○をつけてください(複数回答可)。

- ①しるしつけ ②ミシンの直線縫い ③ジグザグミシン ④ロックミシン
 ⑤しつけをかける ⑥三つ折りにする ⑦まつり縫い ⑧マジックテープつけ
 ⑨スナップつけ ⑩ボタンつけ ⑪ゴム通し ⑫ゴム通しの後のゴム端の始末
 ⑬仕上げアイロン

15) 実習により様々な裁縫技術を習得したいと思いますか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

16) これから学ぶ技術の内、どの技術に興味・関心がありますか。

		全く そう 思わ ない	そ う 思 わ な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら で も な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う	非 常 に そ う 思 う
a	しるしつけに興味・関心がある	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
b	ミシンの直線縫い、ジグザグミシン、ロックミシン等ミシン縫いに興味・関心がある							
c	しつけをかけるに興味・関心がある							
d	三つ折り、まつり縫いなど、裾の始末に興味・関心がある							
e	スナップつけ、ボタンつけに興味・関心がある							
f	マジックテープつけに興味・関心がある							
g	ゴム通しの方法に興味・関心がある							
h	仕上げアイロンの方法に興味・関心がある							

17) 裁縫技術は介護の現場で役に立つと思いますか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

18) これから学ぶ裁縫技術について、どのようなことを考えているか、自由に記述してください。

縫製の基礎的技術，衣服の修繕のための技術について
ワークシート（授業後アンケート調査）

1) 介護の現場で必要な裁縫道具について興味・関心が持てましたか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

2) 次の裁縫道具について，名前や使い方がわかりましたか。

①チャコペン ②ものさし ③はさみ ④糸切はさみ ⑤ミシン ⑥ミシン針
⑦ボビン ⑧待ち針 ⑨縫い針 ⑩アイロン ⑪アイロン台 ⑫霧吹き

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

3) 次の糸について，名前や用途がわかりましたか。

①まつり用糸 ②ミシン糸 ③スナップ・ボタン付け用糸

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

4) 次の衣服の留め具についてについて，名前は用途を理解できましたか。

①マジックテープ ②スナップ ③ボタン ④鍵ホック ⑤ファスナー

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

5) 次の技術について，習得できましたか。

		全 く そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら で も な い	や や そ う 思 う	そ う 思 う	非 常 に そ う 思 う
a	しるしつけを習得できた。	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
b	ミシンの直線縫い，ジグザグミシンについて習得できた。	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
c	しつけをかけるについて習得できた。	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
d	三つ折り，まつり縫いなど，裾の始末を習得できた。	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
e	スナップつけ，ボタンつけに修得できた。	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
f	マジックテープつけを習得できた。	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
g	ゴム通しの方法を習得できた。	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
h	仕上げアイロンの方法習得できた。	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

6) 介護の現場で必要な裁縫技術について興味・関心が持てましたか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

7) 実習により裁縫技術について理解が深まりましたか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

8) 実習により、介護の現場で必要な裁縫技術について関心が深まりましたか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

9) 将来、介護職に就くことになったら、このような裁縫技術を役立てたいと思いますか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

10) 介護の現場で必要な裁縫技術をもっと練習したいと思いますか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

11) 衣服の修繕方法についてもっと知りたいと思いますか。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
全くそう 思わない	そう思わない	あまりそう 思わない	どちらで もない	ややそう思う	そう思う	非常に そう思う

12) 衣服の修繕について、どのような修復が必要となり、どのような技術を生かせるか、洋服のアイテム別に考えて記入してください。

ブ ラ ウ ス テ イ シ ャ ツ ポ ロ シ ャ ツ	
ジ ャ ケ ツ ト コ ー ト	
ズ ボ ン ス カ ー ト	
肌 着 (上) 肌 着 (ショーツ等)	
そ の 他	

13) 衣服の修繕のための技術習得のための本実習についてどのように考えますか。

--

提出確認用 学籍番号 ()